

# 市議団ニュース

久喜・宮代衛生組合議会は一般質問を10月2日、議案質疑を16日におこないました。日本共産党の木村ともり議員(久喜)は一般質問で①生ごみたい肥化(HDM方式・生ごみ減容化処理システム)の推進②ごみ処理の分別化について③ごみの不法投棄について④放射能汚染問題についての4点にわたって質問をしました。

## 衛生組合議会の報告

また、議案では直接搬入する一般家庭ごみの負担増や、動物の死体処理の負担増などを盛り込んだ廃棄物の処理及び再利用に関する条例の一部改正が提案され、日本共産党久喜・宮代議員団は反対しました。この条例の改正の新旧の対照表は別表の通りです。

この中で直接搬入する一般家庭ごみは10<sup>キロ</sup>につき久喜・宮代地域では無料だった処分が100円になり、平成25年10月より実施されます。そのうえ、27年10月からはさらに200円に引き上げられ、大きな負担増となります。

事業活動に伴う一般廃棄物も収集で200円から300円に引き上げになりますが、27年からは、「事業系ごみの収集そのものをしない」との考え。これでは零細企業にとって搬入の負担が増えることとなります。

さらに、動物の死体の収集、処分も成体と子犬などの区別から重量で負担に改定しますが、久喜・宮代地域では収集で1000円以上の負担増になり、問題です。

### 平成27年10月より実施

直接搬入する対象となるごみ 10kgに付き	旧料金	改定料金
一般家庭のごみ	100	200
事業活動に伴い 生じた一般廃棄物	収集	300
	搬入	200

### 久喜・宮代衛生組合議会 廃棄物の処理費用 改定案 平成25年10月より実施 (直接搬入するごみ) 単位円

直接搬入する対象となるごみ 10kgに付き		久喜	菖蒲	栗橋 鷲宮	改定 料金
		旧料金	旧料金	旧料金	
一般家庭のごみ		0	130	100	100
事業活動に伴い 生じた一般廃棄物	収集	200	—	—	300
	搬入	100	200	100	200

※栗橋・鷲宮での家庭ごみの搬入は、引越し時のものに限っていたものです

焼却施設	処理対象物	旧料金 (円)	改定料金		
			重量	10kg 未満	30kg 未満
久喜・ 宮代	動物の死体 (成体)	収集	2500	収集	3500
		処分	1000		
	子犬・小動物	収集	1500	処分	500
		処分	500		
菖蒲 八甫	動物の死体	収集	—	処分	500
		処分	—		

先の議会で一般家庭ごみの指定袋での収集で、実質的な市民負担増となり、いまだに「これまでレジ袋できちんと分別してきた地域住民と組合との話し合いや現場での成果と実績はなんだったのか」との批判が根強くあります。

これらの一連の負担増の動きは久喜宮代衛生組合一般廃棄物(ゴミ)処理基本計画(素案)概要版(11月臨時議会で説明、来年3月議会で計画決定される予定)にも反映されようとしています。

ゴミの有料化検討へ (一般廃棄物処理基本計画案)  
直接搬入ごみは一般事業系とも値上げへ!

この中で、家庭系ごみの減量の項で「平成24年度現在、家庭系ごみの有料化はしていませんが、ごみ処理に係る費用負担の適正化、ごみ処理に際しての排出責任の徹底などによる家庭系ごみの減量化をめざし、負担のあり方等についても今後引き続き検討する必要があります。また、他地域の事例や周辺市町の動向を踏まえて、家庭系ごみ有料化の在り方や有料化に合わせて実施すべき施策等についても検討する必要があります」と記述していることは大きな問題であり、大いに注視する必要があります。

収集作業中の清掃車「パッカー車」という。スプレッジャーの爆発や巻き込みなど収集は危険な作業である。



# 久喜地区消防組合議会の報告（2011年度決算） 急病や労働災害での救急搬送が増える



現場へ出動する救急車

久喜地区消防組合議会

決算質疑【問1】「昨年中の出場先別の搬送人員数はどうであったのか」 【報告】 杉野おさむ

答え（表）

年度	火災	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
2011	12	916	220	69	900	58	87	4185	671	7118
2010	6	768	144	33	663	39	72	3157	566	5448

単位：件

※上の表は、過去2年間の久喜地区管内での救急車が出動した際の理由です。ここ10年ほど減少してきた交通事故関連が増えています。また、労働災害や急病が増えていることは、市民のしごとや健康の現状を反映したものと考えられます。

広域化後も人員の充足をめざせ！

## 決算質疑

【問2】「救急搬送の際、医療機関に到着するまでの所要時間はどうか。長くかかった例から数字を示して」

【答え】 1、「60分以上かかった例」は70件  
2、「30分～60分の例」は805件。  
3、「30分以内」は6,243件、でした。

【問3】「搬送中に消防隊員が病気に感染したことはなかったか」

【答え】 「ありませんでした」

【問4】「昨年中に増加した防火対象物数は」

【答え】 「13件が増えました。」

【問5】「事業所など火災予防などから訪問・立ち入り検査をした結果はどうか。違反を繰り返す事例には改善指示して改善できたか」

【答え】 「立ち入り件数は、632件そのうち法令違反は、197件で是正したのは、84件。

【問6】「検査などの予防に当たる人員は基準の人数を確保できているのか。対応できたか」

「この人数では、すべての車両に出動要請が出てもそれに応えられないのではないのか。」

【答え】 「20人が基準のところ、現在12人だが、互いにカバーしてやっている」

## 一般質問

【問1】「はしご車、化学車、救助工作車、救急車などの乗車人員は、法で決まっているが、装備に見合った人員の確保状況はどうか」

（ポンプ車は5人、救急車は3人以上など最低必要乗車人員の基準が決められています。）

【答え】 「管内の状況に見合う車両を装備したが、人員は8人が不足している。しかし「のりかえ運用」を行っているので、決して「劣勢」だとは思っていない」

【再質問】「精神論ではだめです。国の示した基準をしっかりと満たしていく計画を立てることが大事ではないか。ことは、住民の命と財産がかかっていること」、「来年広域化すると増員しなくても（計算上では）基準を満たすことになる。広域化前の基準を充足させていくよう強く求めます。」



救助工作車

## TPP参加は『国益』をそこなう



加須市内で開かれたシンポジウム

10月6日 加須市で開かれた「TPPストップ 農業と地域経済を守るシンポジウム」に参加して来ました。改めてTPPの問題点を確認する良い機会となりました。

パネリストの紙参議院議員は、TPPには「ISD条項」というのがあるが、これは「日本の安全、健康、福祉などを守る様々なルールが、商品が販売する際、不利益だからこれを撤廃すべきだ」と訴えられるような制度。こんなものが通ったら「食料主権」などなくなると報告。

こんな質問も出されました。

問 「高齢化社会が進む中、日本の農業を守り発展させていくにはどうすればいいののか」

答 紙議員 農業をやりたい、農業を営む人の経営を安定させることが一番大事。それには、価格保障と所得保障を合わせた対策をすべき。特に日本のような山間地域でも農業を営める個別の対策も必要。担い手の確保・育成に長期の計画をたて、国や自治体が特別な力を注ぐことも、求められている。

加須市議からの報告によれば、加須市では、新規に農業の担い手になる人に月3万円、担い手を育てる方には月2万円を補助しているとのこと。久喜市も習う必要があります。

### 【前号の追加説明】

前号の記事「県立図書館廃止計画」のなかで教育環境常任委員会が県職員を参考人として呼び、審議をするとの内容がありました。これは、常任委員会での確認事項であり、日程などが決定しましたという意味ではありません。あくまで「今後の方向」ということです。